



土、種、作物に愛される

(公財) 自然農法国際研究開発センター

理事長 伊藤 明雄



当センターは今年、財団設立30周年を迎えました。多くの先達や支援者の皆様のお蔭と心より感謝いたします。

さて、国連は1年前に開いた総会で、2015年を国際土壌年と定め、世界中で啓発を行うことを決議しました。国際土壌年にあたって、国連事務総長は次のようなメッセージを出しています。

「健全な土壌がなければ、地球上の生命を維持することはできません。土壌は必要不可欠な生態系サービスや、人間の安寧にとつて大切な食料、燃料、繊維、医療用品の基礎を提供しています。

土壌は有機炭素の最大の貯蔵庫として、気候変動の緩和と、これに対する適応にも欠かせない存在です。

(中略)

世界はあまりにも長い間、土壌を

当たり前のものとして扱ってきました。しかし、土壌は簡単に再生できない天然資源です。持続可能な土壌管理は、すべての人にとつての優先課題とすべきです」と。

自然農法の創始者は昭和20年代の論文で、土本来の意義についてこう述べています。「そもそも太初造物主が人間を造るや、人間を養うに足るだけの食物を生産すべく造られたものが土であるから、それに種子を播けば芽を出し、茎、葉、花、実というように漸次^{ぜんじ}発育して、めでたく稔りの秋を迎える事になるのである。してみればこの米を生産する土こそ実に素晴らしい技術者であり、大いに優遇すべきが本当ではなからうか。勿論^{もちろん}これが自然力であるから、この研究こそ科学の課題でなくはならない筈^{はず}である。」(日本農業の大革命より抜粋)

1センチの表土が形づくられるためには数百年もの年月が必要と言われています。その土の中には様々な生き物が生息し活動を行っています。人間の腸の中にも100兆個の腸内細菌がいると言われ、食物の消化吸収のみではなく、病気の原因、性格まで作用していると最近の科学者が解明しつつあり、腸内細菌を変えることで病気が完治した例が報告されています。土の中の微生物は、まだほんの一部しかわかっていませんが、腸内細菌と同じように、植物を育てるために様々な有用な働きをしていると考えられます。

世界は、色々な行き詰まりを迎えて、ようやく土の大切さに気づき始めてきました。私たちは、土を生きものとして捉え、土の生き物たちのことを考えなくてはならないのではないのでしょうか。人間の食べ物と同

じように、土に入れる資材もよく吟味する必要があります。腐ったものや不純物などを入れると、人間が下痢や体調不良になると同じように、作物に様々な病害虫を発生させることになりかねません。目に見えないところの働きはとても重要な存在であることを肝に銘じたいものです。

「国際土壌年」にあたり、この重要でありながら、忘れられた土の働きを見直し、土を愛し、土に感謝しようではありませんか。冒頭のご挨拶の結びとして、次の短歌を掲げます。

土を愛し

土を尊び土の恩

知る農人^{みんから}に土は報ゆる

岡田 喬